

とやま市民エネルギー協議会

第4回定時総会



市民協議会第3回定時総会を開催(2019.4.20)



北陸大学の三国名誉教授が記念講演(2019.4.20)



「小矢部八伏市民発電所」が完成(2021.3.30)



「小水力発電プロジェクト」が発電候補地調査(2021.7.22)

- とき 2021年10月16日(土)
- ところ 自治労とやま会館

第1号議案

2019年度活動報告

- ① 「とやま市民エネルギー協議会」の第3回総会を開催(2019.4.20)
- ② 記念講演会で北陸大学の三国千秋名誉教授が講演(2019.4.20)



- ③ 記念講演会で金沢市民発電所の永原伸一郎代表社員が講演(2019.4.20)
- ④ 「太陽光発電の仕組みと普及」をテーマに第3回会員会議を開催(2019.12.7)



- ⑤ 「小矢部八伏市民発電所」が完成(2021.3.30)
- ⑥ 「小矢部八伏市民発電所」が完成(2021.3.30)



- ⑦ 「小水力発電プロジェクト」が発電候補地調査(2021.7.22)
- ⑧ 「小水力発電プロジェクト」が発電候補地調査(2021.7.22)



⑨ 市民発電所で総計187,641kwhを発電

グリーン発電で環境に貢献

☆ 発電総量(2017.11.7~2019.4.12)

小矢部清水市民発電所	114,933kwh
小矢部臼谷市民発電所	72,708kwh
<hr/>	
市民発電所総計	187,641kwh

62.5世帯の年間電力消費量に相当します。

・1世帯あたりの年間電力消費量は3,000kwh

(出典 電気事業連合会)

⑩ 市民発電所でスギ7,258本分のCO₂を削減

CO₂削減で環境に貢献

☆ 市民発電総計によるCO₂削減効果

CO₂削減量101,608kg

・1kwhあたりのCO₂削減量 0.5415kg

(出典 太陽光発電協会)

☆ スギ成木 7,258本に相当

・スギ1本(50年生)の年間CO₂吸収量 14kg

(出典 林野庁関東森林管理局)

第2号議案

2019 年度決算報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

(収入の部)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
会 費	60,000	25,000	個人会費
寄 付 金	50,000	68,100	
雑 収 入	0	0	預金金利は 0
繰 越 金	15,675	15,675	
合 計	125,675	108,775	

(支出の部)

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	摘 要
会 議 費	90,000	89,245	
(1) 総 会	50,000	64,450	会場費・講師謝礼・資料代等
(2) 会員会議	20,000	5,801	会場費等
(3) 理事会	20,000	18,994	会場費等
活 動 費	20,000	0	
事 務 費	10,000	0	
予 備 費	5,675	0	
合 計	125,675	89,245	

収入 108,775

支出 89,245

19,530 次年度に繰り越し

2019 年度会計監査報告

2020 年 6 月 23 日

とやま市民エネルギー協議会

共同代表 竹 川 慎 吾 様
共同代表 岡 崎 信 也 様
共同代表 齊 藤 光 一 様
共同代表 宮 崎 周 二 様

監 事 山 田 博 ⑩

2019 年度の会計収支について監査を実施しましたので、その結果を下記のとおり報告します。

記

- 1 監査実施日 2020 年 6 月 23 日(火)
 - 2 監査実施場所 山田法律事務所
 - 3 監査対象期間 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで
 - 4 監査の結果
 - ① 収入及び支出について不当・不正な点は認められず、執行状況は適正・良好である。
 - ② 帳簿及び証拠書類は適正に処理されており良好である。
- 以 上

第3号議案

2021年度活動方針（案）

はじめに

私たちは、自らが再生可能エネルギーを生み、そして広めることを目指し、とやま市民エネルギー協議会を設立して5年目を迎えました。

東日本大震災、福島原発事故は、私たちの想像をはるかに超える大災害をもたらしました。地震発生の確立が非常に小さいとされてきた熊本県を震度7の揺れが2度も襲い、また、2018年9月発生した北海道胆振東部地震も震度7の揺れが襲いました。そして、全道が停電するブラックアウトを引き起こし、電源が1カ所に集中する危険性が露わとなり、地方分散型のエネルギーの必要性が再認識されました。加えて、非常に高い確率で首都直下型地震、東南海地震が想定されています。

私たちは、近代化・効率化を追い求め、経済の主体は財界でした。民主主義も形骸化し、私たちは、受け身の姿勢でした。今、私たち自らが能動的に考え、活動することが求められ、私たちが、新しい社会を創り上げていくときにきていると言えます。

私たちは、医療、教育、農業、交通、地域コミュニティなど様々な地域の課題に、地域の実態から取り組むことが大切であると考えます。

私たちは、その一環として、エネルギーのあり方、生産、消費について考え、小さくても市民自らがエネルギー生産に取り組み始めました。それは、人、物、金が地域で循環する仕組みでもあります。

それは、地域での民主主義を具体化し、拡充し、深化し、地域循環型の経済、地域の自立を目指す小さな一翼を創り、担っていくことにつながると確信します。

具体的活動

1. 学習・交流・情報交換の活動

(1) 会員相互の交流・情報交換

会員相互の交流や情報交換を大切にします。ホームページやメール等の活用を進めるとともに、会員会議（定例会）において、会員相互の情報交換・交流を深める取り組みを行います。これまで取り組んできた太陽光発電に加え、引き続き小水力発電についても調査・研究を進めることとします。

(2) 全国の市民組織との交流・情報交換

全国で市民の手による再生可能エネルギー普及の取り組みが行われ、「全国ご当地エネルギー協会」、「環境エネルギー政策研究所」、「市民・地域共同発電所全国フォーラム」は、そうした取り組みのキーステーションとなっています。私たちも積極的に参加し、全国の仲間と連携して活動を進めます。

引き続き、石川県や新潟県などの再生可能エネルギーに関する市民団体との交流・情報交換を行い、私たちの運動の幅を広げていくこととします。

(3) 学習

会員会議における学習とともに当協議会の総会に併せた講演会や自治研センターや事業会社との協力のもとに講演会を開催していくこととします。

2. 調査・研究活動

(1) 太陽光発電に関する調査・研究

新たな太陽光発電所の建設に向け、調査・研究を引き続き行っていきます。

(2) 小水力発電に関する調査・研究

公益社団法人富山県地方自治研究センターと連携して、再生可能エネルギープロジェクト（小水力）において調査・研究を進めてきました。

プロジェクトとして、メンバーが手分けして、山間地に分け入り、小水力発電の候補適地を調査してきました。その結果、候補適地とみられる所において、富山国際大学の上坂教授にお世話になりながら、調査を進めてきました。

市民による小水力発電所の実現には建設適地の探索と発電可能性についての調査が大切であり、当協議会の会員から候補適地の情報を持ち寄りながら、引き続き調査・研究を進めることとします。

(3) 風力、バイオマス等による市民発電に関する調査・研究

風力、バイオマス等による市民発電についても、関心のある会員を中心に調査・研究を進めることを検討していきます。

3. 普及活動

会員だけにとどまらず、広く市民に対する普及活動を行うことも課題です。現在講演会などは、誰でも自由に参加できる体制とし、ホームページやマスコミを通じた情報発信に努めていますが、さらに普及活動に努めるものとします。

また、ホームページの適時な更新、充実をし、読みたくなるホームページ、情報発信力のあるホームページの作成につとめます。さらに、本年度は、『会員ニュース』の発行・郵送を取り組むこととします。

4. 事業会社の取り組み

事業会社である「とやま市民エネルギー株式会社」は協議会の活動の一環として設立されました。協議会は事業会社の基本方向を決定し、事業会社は再生可能エネルギーの普及活動を進めることとします。

(1) 第5回株主総会の開催

本年6月26日に第5回株主総会を開催し、2020年度決算の承認並びに2021年度の事業計画を決定しました。

(2) 太陽光発電

小矢部清水太陽光市民発電所、小矢部臼谷太陽光市民発電所及び今年3月30日に完成した小矢部八伏太陽光市民発電所は順調に稼働し、会社の経営の安定に寄与しています。引き続き、3発電所の安定的な発電に向け、必要な保守・管理を行います。

(3) 小水力発電

当協議会の議論や自治研センターの再生可能エネルギープロジェクトにおける調査・研究を踏まえ、引き続き実現に向け検討を進めていくこととします。

5. 会員拡大

当協議会の会員は、入会が続き50人となりました。さらに活動を広めるため、入会者の拡大に努めることとします。

6. 機関運営

(1) 定時総会

総会において、交流や情報交換を行い、活動方針を決定するとともに講演会を開催していくこととします。

(2) 会員会議（定例会）

規約において年2回をめぐりに開催することとしています。活動の意思統一や会員の情報交換、学習の大切な場であり、多くの参加で充実した会員会議にしていきます。

また、事業会社の現況についても報告・議論し、共通認識を深めていくものとしません。

(3) 理事会

日常の業務を執行していく機関として、活動を具体化していきます。事業会社の運営についても、状況を把握するとともに、運営方向について協議していくこととします。

理事の増員をおこない、理事会の充実をはかります。

7. 財政

引き続き財政の確立に努めることとします。

8. 組織のありかたについて

現在任意組織となっていますが、社会的信用も考え合わせ、NPO 法人化や社団法人化について、引き続き検討していくこととします。

第4号議案

2021 年度予算(案)

(2021 年4月1日～2022 年3月31日)

(収入の部)

(単位:円)

科 目	本年度予算額	19 年度予算額	摘 要
会 費	0	60,000	個人会費
寄 付 金	120,000	50,000	事業会社、個人、団体
雑 収 入	0	0	
繰 越 金	19,530	15,675	
合 計	139,530	125,675	

(支出の部)

(単位:円)

科 目	本年度予算額	19 年度予算額	摘 要
会 議 費	100,000	90,000	
(1) 総 会	50,000	50,000	会場費・資料代等
(2) 会員会議	20,000	20,000	会場費等
(3) 理事会	30,000	20,000	会場費等
活 動 費	20,000	20,000	
事 務 費	10,000	10,000	事務・通信費等
予 備 費	9,530	5,675	
合 計	139,530	125,675	

第5号議案

2021年度 役員体制（案）

共同代表	竹川 慎吾
共同代表	岡崎 信也
共同代表	齊藤 光一
共同代表	宮崎 周二
事務局 長	坂井 登喜雄
事務局 次長	小澤 慎一
理事	藤井 宗一
理事	川西 和夫
理事	辰尾 哲雄
理事	馬瀬口 安幸
理事	高橋 美知広
理事	飯田 義博
監事	山田 博